

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	38人	算数	38人	理科	38人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	42人	算数	42人	理科	42人
------	----	-----	----	-----	----	-----

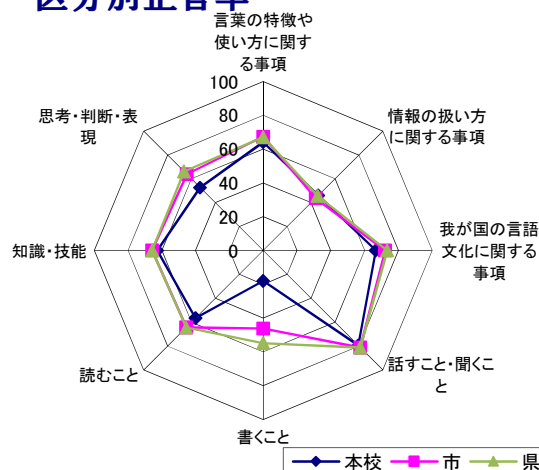
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷北小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	64.1	67.4	67.1
	情報の扱い方に関する事項	46.2	43.8	45.7
	我が国の言語文化に関する事項	66.7	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	79.5	81.2	81.2
	書くこと	18.0	46.2	54.9
	読むこと	56.7	64.3	64.5
観点	知識・技能	62.7	65.7	65.7
	思考・判断・表現	52.7	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

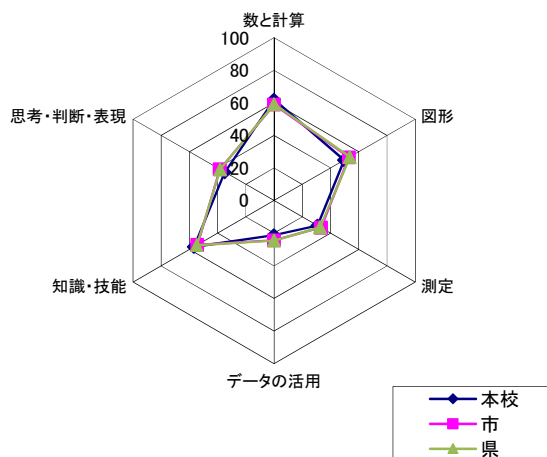
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○漢字の読みについての設問では、本校の正答率が市の平均を上回った。 ○主語と述語の関係を問う設問では、本校の正答率が県の正答率を下回った。 ●漢字の書きについての設問では、正答率が40%を下回るものがあった。	・漢字の読み書きについては、これまでの基礎基本の定着を図るための小テストでの確認や習熟を高めるための家庭学習の支援を続けていく。
情報の扱い方に関する事項	○例文で用いられた「うすい」の意味として適するものを選ぶ設問では、正答率が市の平均を上回った。	・書かれた文章の意味を正しく理解した上で、必要な情報を選択する力を育てるために、読解力や語彙力の向上を図りたい。そのために、様々な文章に慣れ親しめるような読書の機会を意図的に設けていく。
我が国の言語文化に関する事項	●漢字のへんを問う設問では、本校児童の正答率が、66.7%と市の正答率を下回った。	・新出漢字等の学習において、反復練習にとどめることなく、漢字の成り立ちや漢字そのものが表す意味などに関心が持てるように指導の工夫を行うことで、児童の主体的な学びの態度を促し、漢字への興味を高める。
話すこと・聞くこと	○司会者の話し方の工夫を説明した文として適するものを選ぶ設問では、正答率が82.1%で市や県の正答率を上回った。 ●相手に伝わるように自分の考えを理由を挙げながら話すことができるかをみる設問では、市や県の正答率を下回った。	・国語科の授業にとどまらず、対話的な学習機会を多く設けることで、相手の意見を基に理由を挙げながら自分の考えを話す力を付けていきたい。
書くこと	●みんながろう下を安全に歩く方法について、指定された条件に合わせて文章を書く設問では、市や県の正答率を大きく下回るとともに、無回答が多かった。	・ミニ作文や学習のまとめの記述など、日々の学習活動の中に文章を自分で構成して書く機会を増やし、個に応じた指導をしていく。
読むこと	●叙述を基に指示語の内容を捉えることができるかをみる設問では、市や県の正答率を大きく下回った。	・説明文において、叙述を基に文章の内容を捉えて読み取る力をつけるために、指示語を意識しながら読み進めていくことを指導する。

宇都宮市立豊郷北小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	62.0	58.9	59.2
	図形	49.6	53.0	53.7
	測定	30.8	33.1	32.6
	データの活用	21.2	24.4	24.6
観点	知識・技能	56.8	54.3	54.7
	思考・判断・表現	34.9	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

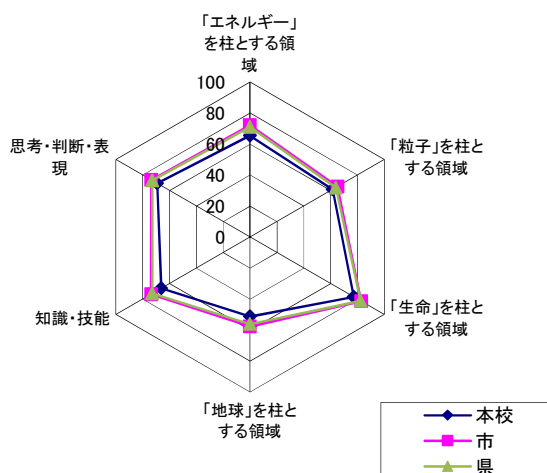
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○小数のしくみや表し方に関する設問では、正答率が90%を上回った。</p> <p>○大きな数の表し方や分数の表す大きさ、数直線の仕組み、整数-小数第一位の計算、同分母の分子の加法の計算など、市の正答率を大きく上回った。</p> <p>●小数を整数と同じ数直線の中に位置づける設問や、数量の関係について口を使って正しく表された図を選ぶ設問では、市や県の正答率を大きく下回った。</p>	<p>・基礎基本となる既習の四則演算は概ね身に付いている。今後もドリルや練習問題の取り組みを続けていく。</p> <p>・問題の意図を明確に捉えられるように、場面をイメージしやすい図などを示し、視覚的に分かりやすい説明を授業に取り入れる。</p>
図形	<p>○円の性質を利用して正三角形を作図する設問や、二等辺三角形の性質についての設問では、市や県の正答率とほぼ同じであった。</p>	<p>・授業の中で、児童が主体的に考える時間を設け、基本的な図形の定義や性質について、言葉で説明できるように授業展開を工夫する。</p>
測定	<p>○地図から道のりを読み取ったり、時間が経過する前の時刻を求めたり、はかりの目盛りを読み取って重さを答えたりする設問では、市や県とほぼ同じ正答率だった。</p> <p>●上記の設問の無回答率が20%を超えており、特に、重さの単位を理解し合計の重さの大小を比較する設問では、市や県の無回答率と比較して10ポイント以上多い。</p>	<p>・はかりを使う機会を設け使い方を再度確認し、技能の習得を図る。</p> <p>・具体物を例に挙げながら、重さの見当をつける活動を積極的に取り入れ、解答しようとする習慣がつくよう、適宜指導する。</p>
データの活用	<p>○目盛りの付け方が異なる複数のグラフについて、数の比べ方を説明する設問は、市や県の正答率とほぼ同じであった。</p> <p>●適切な棒グラフから示された値を読み取る設問や、示されたテーマについて適切なグラフを選び、選んだ訳を説明する設問では、約半数が無回答であった。</p>	<p>・与えられた情報を正しく且つ漏れなく読み取り、解答しようとする習慣が付くよう、適宜指導する。</p>

宇都宮市立豊郷北小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	65.4	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	61.5	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	77.2	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	51.3	57.7	56.2
観点	知識・技能	66.2	73.8	72.8
	思考・判断・表現	69.2	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>○音の大小とふるえ方の違いについてや音を止める方法とトライアングルのふるえについて関連付けて考える設問では、市の平均と同等の正答率だった。</p> <p>●磁石の性質について理解しているかどうかや磁石の性質のうち、おもちゃに利用した性質を推測する設問では、市の平均を大きく下回った。</p>	<p>・電気の流れや音の伝わり方に関する設問の正答率が全体的に低く、復習が必要である。電気に関する学習は、今後も授業で積み重ねて行くので、機会をとらえて既習内容を確認し、理解の定着を図る。また、今後日常生活の中で起こる事象とも関連付けながら授業展開の工夫を行う。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>○形を変えても重さはかわらないことについて理解しているかどうかをみる設問では、市の平均から3ポイント程度下回っているが、学校全体の平均正答率は84%と正答率が高かった。</p> <p>●同じ体積でもものの種類によって重さが違うことについて表と関連付けて考えることができるかどうかを見る設問では、市の平均を4ポイント下回るとともに学校全体としても正答率が38%と低かった。</p>	<p>・授業での実験で得た結果を、日常生活に置き換えて考えたり類似場面に当てはめて比べたりすることに課題が見られる。学習したことが生きた知識となるように、科学的なものの見方・考え方を使う授業展開の工夫を行う。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>○植物の体のつくりについてや昆虫のすみかについて理解しているかどうかを見る設問では、市の平均と同等だったり上回ったりしている。</p> <p>●虫めがねの使い方を身に付けているかどうかや昆虫とダンゴムシの体のつくりの違いをとらえることができるかどうかの設問では、市の平均を大きく下回っている。</p>	<p>・実験の仕方や道具の使い方についての復習を行う。実際に行った観察から得た知識を、実際に観察していない類似生物に当てはめて考えることに課題が見られた。このことから、学んだことを自然のきまりとして捉え、得た知識を活用しようとする場の設定を意識的に設け、授業の改善を行う。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>○かげが太陽の反対側にできることを理解し、かげふみの動きと結び付けられているかどうかを見る設問では、市の平均を上回った。</p> <p>●方位磁針の使い方を身に付けているかどうかをみる設問や、太陽が動く方位を理解しているかどうかを見る設問では、市の平均を大きく下回っている。</p>	<p>・かげと太陽の位置に関する学習や道具の使い方の復習が必要である。理科の授業のみならず、学校生活の中で既習内容を確認し、理解の定着を図る。</p>

宇都宮市立豊郷北小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」との質問には、「はい」と回答した本校児童の割合が89.5%で、市の割合82.1%を上回った。家で宿題をすることにより、家庭学習の習慣は身に付いている児童が多いことが分かる。現在、家庭学習として、宿題と自主学習を両立できるよう指導しているところであり、学力向上とともに自らの強みを生かしたり興味関心を広げたりする学習も推奨し、今後も継続指導していきたい。

○「1か月に、何さつくらい本を読みますか」との質問に、「11さつ以上」と回答した本校児童の割合が26.3%で、市の割合22.7%を大きく上回った。朝の学習や休み時間などに、学級文庫や図書室の本を活用したり、学級での児童による読み聞かせによる読書の啓発を行ったりしていることで、冊数が多くなったと考えられる。今後も読書習慣を推奨し、積極的に本を読もうとする態度を育みたい。

○「早ね、早起きを心がけている」との質問に、「はい」と回答した本校児童の割合が47.4%で、市の割合46.9%を上回った。昨今、ゲームやSNSに費やす時間が増えたことで生活リズムが崩れてしまうことがあるが、各家庭での生活リズムに対する意識の高さが肯定的回答の割合を高めていると考えられる。これからも早寝、早起きの大切さを伝え、保護者と連携を図りながら児童の生活環境をよりよいものにしていきたい。

●「自分には、よいところがあると思う」との質問に、「はい」と回答した本校児童の割合が47.4%で、市の割合52.7%を下回った。学校生活では、元気に楽しく活動する児童の姿が多く見られるが、自己肯定感の低い児童等への支援が必要だと考えられる。今後も家庭と連携を図って児童理解に努め、互いのよさを認め合いながら児童一人一人のよさを伸ばす指導を続けていきたい。

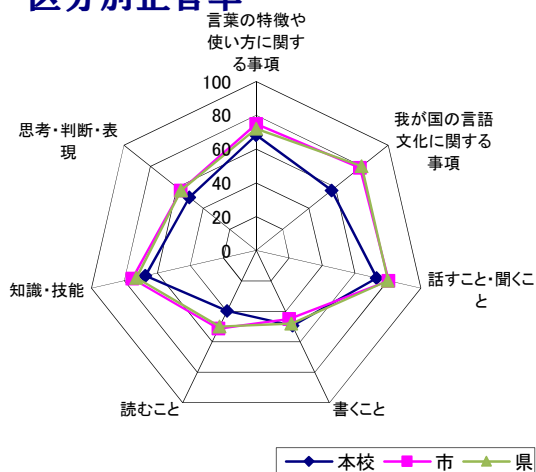
●「家で、自分で計画を立てて勉強している」との質問に、「はい」と回答した本校児童の割合は23.7%で、市の割合33.4%を下回った。児童の学力差や意欲差を考慮し、個に応じた課題の量や質を工夫するようアドバイスをするとともに、児童の学力向上のために家庭においても主体的に学んで行けるよう指導を行っていきたい。

●「自分のよさを人のために生かしたいと思う」との質問に、「はい」と回答した本校児童の割合が55.3%で、市の割合59.1%を下回った。自分のよさとは、自分の強みであることやよりよい人間関係を構築する上で有益なものであることを実感できるように、日々の学校生活で児童のよさをみんなで共有する機会を設けていきたい。

宇都宮市立豊郷北小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	68.3	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	57.1	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	73.2	80.4	80.0
	書くこと	49.4	45.1	48.0
	読むこと	39.6	51.3	50.0
観点	知識・技能	67.3	75.2	72.8
	思考・判断・表現	50.5	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

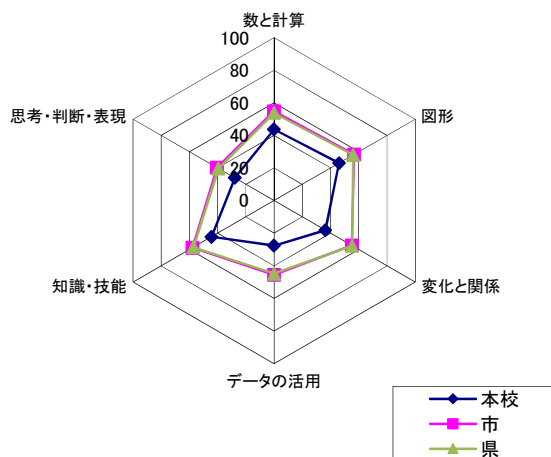
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を下回った。</p> <p>○文を読み様子を表す語として適する語を選ぶ問題において、92.9%と高い正答率を示し、定着していることが分かる。</p> <p>●漢字を読んだり書いたりする問題においては、6問中4問が市の平均を下回った。</p> <p>●文の中における修飾と被修飾の関係をつめる問題において正答率は4.8%であり、低い正答率であった。</p>	<p>・修飾語と被修飾語の関係を捉えることを意識して読んだり書いたりできるようにしていく。</p> <p>・既習漢字においては、復習を多く取り入れ定着を図る。また、生活の中でも積極的に漢字を使いこなせるように指導していく。</p>
情報の扱い方に関する事項		
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を下回った。</p> <p>●文章に合うことわざ「頭をひねる」を選ぶ問題では、市の平均正答率を21%下回った。</p>	<p>・ことわざや慣用句を児童との会話の中で教師が積極的に用いることで、児童が親しみをもってその意味と使い方が理解できるようにする。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均を下回った。</p> <p>○司会者として参加者の発言の内容に注目しながら考えをまとめる問題は、市の平均とほぼ同等であった。</p> <p>●話し手の工夫を捉える問題では、市の平均を14.3ポイント下回った。</p>	<p>・教師や友達の話を書く際には、相手の意図することを考えながら、大切な部分を落とさずに聞けるように指導していく。また、授業中、互いに意見を伝え合う機会を設定していく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均を上回った。</p> <p>○段落の役割を理解し、構成を考えて書くことにおいて、市の平均を9ポイント上回った。</p> <p>●全体として市の平均を上回っているが、20%近い児童が無回答であった。</p>	<p>・条件を指定して文章を書く機会を意図的に取り入れ、段落構成や文章のまとまりを項目立てたメモを作るなどして、スモールステップで書く練習を進める。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均を下回った。</p> <p>●文章を読んで感じたこと等を共有することができるかにおいては、市の平均を18ポイント以上下回った。</p> <p>●叙述を基に文章の内容を捉えることについては、正答率が21%にとどまった。</p>	<p>・説明文を読む際には、段落ごとに書かれていることを正しく読み取ると共に、段落の役割や文章構成を考えて読むように指導していく。</p> <p>・物語文を読む際には、登場人物の言葉や動作、表情などの気持ちが表れている部分に線を引くなど、細かい描写にも目を向けて読み進めることができるように指導していく。</p>

宇都宮市立豊郷北小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	43.7	54.9	53.7
	図形	46.0	56.6	56.1
	変化と関係	36.3	55.1	55.2
	データの活用	27.6	45.5	44.8
観点	知識・技能	44.4	57.8	57.2
	思考・判断・表現	27.9	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

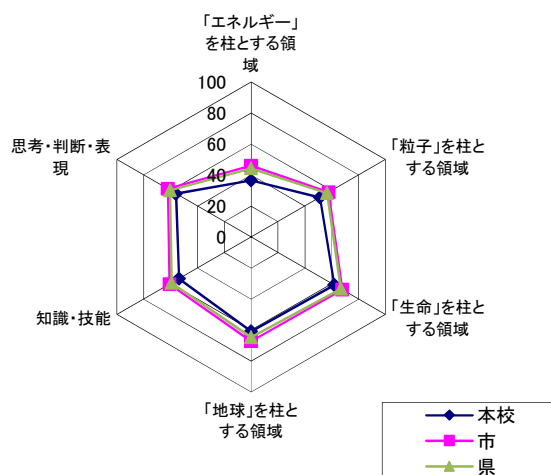
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ●わり算の問題においては市の平均より3ポイント下回った。 ●小数の大きさを比べるの問題において、市の平均を18ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算ドリルやプリント集などを活用し、基礎的事項の確実な定着を図る。また、間違えた問題はもう一度解く習慣を身に付けさせる。 ・授業の中でいろいろな単元の復習の時間を設け、知識の定着を図る。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ●三角定規を利用して正しい角度を選んだり、180度より大きい角度を求めたりする問題においては、市の平均を11.8ポイント下回った。 ●平行四辺形の作図をする問題の正答率は26.2%にとどまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形における基礎的な概念の理解を図るため、ドリルやプリント集、教具を活用し、基礎的事項の確実な定着を図る。
変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> ●割合の仕組みを理解しているかを問う問題では、市の平均を20ポイント下回った。 ●比べ方について、差を用いる場面と割合を用いる場面について説明する問題では、市の平均を21ポイント下回り、40%が無回答であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算ドリルやプリント集などを活用し、基礎的事項の確実な定着を図る。また、間違えた問題はもう一度解く習慣を身に付けさせる。
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> ●折れ線グラフを読み取ることは、市の平均を23ポイント下回り、33%の児童が無回答であった。 ●2次元表の意味の理解を問う問題においては、市の平均を20ポイント程度下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフを読み取る際に、根拠を基に分かることを説明する活動を取り入れたり、理科や社会の学習で、グラフを読み取る活動を取り入れたりする。

宇都宮市立豊郷北小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	36.5	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	51.2	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	61.9	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	60.9	67.2	64.6
観点	知識・技能	53.6	60.8	59.2
	思考・判断・表現	56.0	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	●簡易検流計の針のふれ方の問題においては、市の平均を12ポイント下回り、その正答率は19.1%にとどまった。	・簡易検流計をはじめ、実験器具の扱い方や見方について、その都度丁寧に指導していく。
「粒子」を柱とする領域	○実験の結果から金属の温度と体積について読み取る問題では、市の平均を3ポイント上回り、正答率は90%を超えた。 ○空気の温まり方と身の回りの現象を関連付ける問題では、市の平均と同等であった。 ●湯気と水蒸気の違いについての理解は14.3%で市の平均を18ポイント下回った。	・実験等の体験活動では、結果の考察を仲間と伝え合い、考えを深める活動を行い、実感を伴った理解につながるようにしていく。 ・学習したことを日常生活に結びつけ、身近に感じられるように指導していく。
「生命」を柱とする領域	○季節ごとの動物の活動についての理解は、市の平均を7ポイント上回り、正答率は81%であった。 ●植物の成長についての理解は、市の平均を21ポイント下回った。	・身の回りで起こる事象を身近な問題として捉えるような問題提起を行い、関心を高める。
「地球」を柱とする領域	○気温のはかり方についての問題では、市の平均を12ポイント上回った。 ●蒸発についての理解を問う問題では、市の平均を20ポイント下回っており、12%の児童が無回答であった。	・学習したことを日常生活に結びつけ、身近に感じられるように指導していく。

宇都宮市立豊郷北小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学級活動の時間に友達同士で話し合っけてクラスの決まりなどを決めていると思う」の肯定的回答の割合は100%である。今後も、一人一人が過ごしやすい学級の雰囲気作りを続けていく。

○「学校の宿題は自分のためになっている。」の肯定的回答の割合は100%であり、家庭学習の大切さを理解している。今後も、自主学習と併せて家庭学習を充実できるように指導していく。

○「物事を最後までやり遂げて嬉しかったことがある」の肯定的回答の割合は100%であり、今後も児童の根気強さを高める経験ができるよう支援していく。

○「学習して身につけたことは将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の肯定的回答の割合は97%であり、県の平均を上回った。学習と実生活とのつながりを実感している児童が多く、今後も学習と生活とのつながりを実感できるような指導を工夫していく。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表すること」に対する「得意である」「やや得意である」という肯定的回答の割合は県の平均より、下回っており、発表しやすい場の雰囲気を整えていくようにしていく。

宇都宮市立豊郷北小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基本的学習習慣、学習における基礎基本の定着	学習のきまりの共通理解を図り、児童に指導すると共に、発問や指示、説明、板書等が明確になるよう心掛けて指導する。朝の学習を活用して基礎基本の定着を図る。	「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」児童は4年生で76.3%、5年生で76.8%と、学習への取り組み方は同程度である。各教科の知識・技能においても、4年生と5年生では習熟度に学年差が見られる。
学習のねらいを達成させるための学び合い	授業において、その時間のめあてを確認すると共に、振り返りの時間を確保し、理解できたことやできるようになったこと、自分の課題等を児童が実感できるようにする。互いの考えを交換し合う機会や場を確保し、自分の考えを広めたり深めたりできるようにする。	「授業であつかうノートには、学習の目標とまとめを書いている」児童は4年生で94.7%、5年生で90.7%、「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」の設問で肯定的回答をした割合は4年生で76.3%、5年生で74.4%である。「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の設問で肯定的回答をした割合は、4年生73.7%、5年生が93.0%である。
家庭学習への取り組み	学年の発達段階に応じた家庭学習の時間を設定し、児童が進んで学習に取り組めるよう指導を工夫する。家庭学習強化週間を設けたり、懇談会等で家庭学習について話題にしたりと、保護者への啓発を図る。	「家で学校の宿題をしている」と肯定的回答をした児童は、4年生で89.5%、5年生で93%であった。しかし「自分で計画を立てて勉強している」の設問において、肯定的回答の割合は4年生が60.5%、5年生が83.7%である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・教科に関する調査では、特に国語において基礎基本の定着が図れていないことが分かった。また、学年、教科によって思考・判断・表現に課題が見られた。	国語の基礎基本の定着 思考、判断、表現力を育てる指導の工夫	既習漢字を反復練習することにより定着を図る。文章を書く力を身につけるために、作文のテーマや形式を工夫するなどして、楽しく文章を書く練習を定期的に行う。さらに、課題における自分の考えを文章や図などに示して友達と意見交換をする機会を意図的に設け、思考力、判断力、表現力の育成を図る。
・学習の振り返り活動を行っているが、児童がじっくりと取り組む時間が取れていないことや考えが深められていない様子が見られた。	授業の終末における振り返り活動の徹底	授業の見通しを明確にして無理のない時間配分で学習できるようにし、振り返り活動の時間を確実に設ける授業展開を設定する。また、児童に本時を振り返るときの視点を与え、考えを深められるようにする。
・計画的に自ら学習することにおいて、課題が見られる。	家庭学習の推進	計画的に学習を進めることが苦手な児童に、家庭学習でどんなことができるのかを確認して、児童が自らやりたいと思う事例の提案をする。学習を選択することから、計画性を育みたい。